

2025.4.3

第 121 回 有田国際陶磁展
美術工芸品・オブジェ部門 審査評

審査長 伊藤嘉章

日本で最も長い歴史を持つ公募展も今年は 121 回目を迎えることとなりました。九州・山口という地域での公募展から国際的な公募展へと発展し、美術工芸品・オブジェ部門と、異なる場で活躍する作家の作品が一堂に会するという公募展に、今年も多くの特作が集まってきました。

今回、審査を担当したのは前田昭博さん、桑原紀子さんと伊藤の三人です。最初にそれぞれが 30 作品を選ぶところから審査は始まりました。その後、検討と投票を繰り返しながら 72 作品の入選作品を選出しました。入賞作品は、入選作品からそれぞれ 5 作品を選び、入賞候補を選出。そこから上位 5 作品、続いて 10 作品と選んでいきました。

1 位文部科学大臣賞となったのは浦郷正一郎さんの作品「気まぐれなコンポジション」です。紐づくりによって、オブジェの持つ豊かさが、ゆったりとした器の形の中に宿っています。「静」と「動」を意識することから生まれたという自由な表現の楽しさとともに。

2 位佐賀県知事賞は嶋田敏生さんの「連作 嘆きの壁」です。過去に入賞もされている作品の連作ですが、この作品では白磁という中での表現とすることで、より強い表情を持ちえた作品となったところが評価されました。

3 位有田町長賞は森山寛二郎さんの「伸」は流れるような二つの曲線の組み合わせ、そこから生まれる躍動感がこの作品の生命です。従来の黒の作品から一歩踏み出した色彩と艶消しの表現も注目です。

4 位有田商工会議所会頭賞は赤塚幸恵さんの「白磁釉内彩鉢」です。釉内彩という独特の彩の技法を駆使して、ゆったりとした鉢の内外を飾っていきます。

この公募展では作品に作家からのメッセージが添えられています。これは見る者にとって、また、作り手にとっても、とても大切なことだと思いました。見る者にとっては作品を見る入口がそこから広がっていきます。作り手にとっては、自らの一歩がそこに確実に記さることとなり、それが新たな扉を開くきっかけにもなるからです。

審査員名簿

美術工芸品・オブジェ部門

(50音順・敬称略)

氏 名	所 属	備 考		推 薦 者
イトウ ヨシアキ 伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館 総長 町田市立博物館 館長	評 論 家	愛知県瀬戸市	今泉今右衛門
クワハラ ノリコ 桑原 紀子	日展 会員	日 展 会 員	京都市左京区	馬場九洲夫
マエタ アキヒロ 前田 昭博	日本工芸会 参与 重要無形文化財保持者	日 本 工 芸 会	鳥取県鳥取市	今泉今右衛門